

## F-21 非行少年の親子関係と問題徴候について

比治山女短大 下東 艶子

1. 私は現在非行のため少年院に収容されている少年が、入院前にどんな親子関係を有していたか、また、親の態度が子供の性格に及ぼす影響について調べたいと思った。

2. 品川氏著、田研式親子関係診断テスト用紙を用い某中等少年院において実態調査を行ない、親の態度の診断と子供の問題徴候について検討した。

3. その結果、親の態度については、拒否的であり、特に少年院の場合は、積極的拒否即ち体罰、虐待等が多くあり、また、子供からみて、親の態度は厳格的で強制的である。きびしく、冷たい反面、服従的な態度も多くて、盲愛的である。そして態度に矛盾が多く、父と母の

不一致的態度は極めて大きい比重を示している。なお、これ等の特徴は一般の正常な親子関係においても同じ傾向が認められた。

次に性格上の問題としては、反社会性に、非行、性的非行、うそ、ぬすみ、奇行、出しゃばりが多く目立ち、非社会性に、根気なし、忍耐力欠如、ひっこみ思案、無口があり、自己評価に、劣等感、逃避が多く、退行性にひねくれ、すねる等があり、また、神経質、神経的習慣において圧倒的に多く、これも一般的な傾向と同じ特徴であるが、非行に直結する要因は何であるか、今後の課題にしたい。